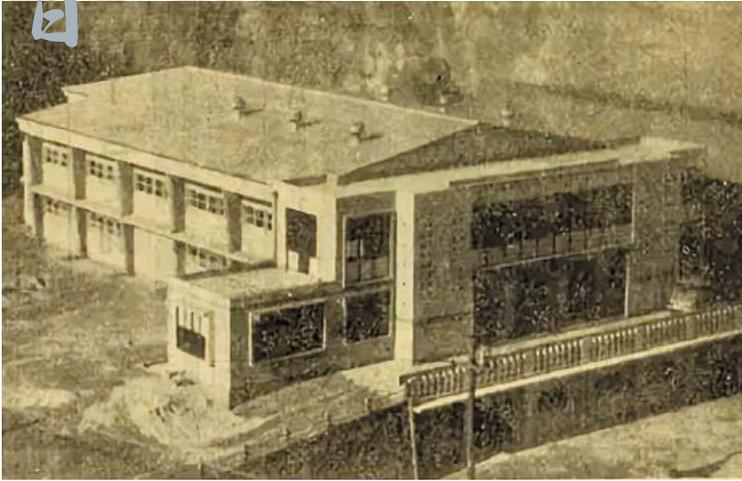




市中央公民館（現在の市保健相談センター）

昔 昭和39年



今



昭和39年に北田町に建設された中央公民館。各種会議室や調理室、図書室をはじめ、市営結婚式場も設けられていました。中央公民館は昭和50年に現在の文化会館横に移転したため、平成6年に市保健相談センターへ建て替えを行いました。現在は健康づくりの拠点として健診事業や予防接種など市民の健康づくりに寄与しています。



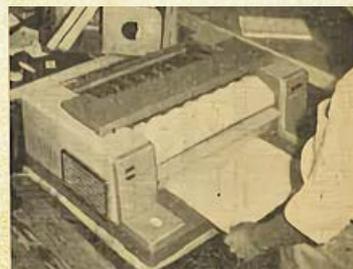
昭和35年に導入したアメリカ製のバロース会計機。この頃には、多くの自治体が会計機を導入し始めていました。

市役所では数字を扱う業務が多く、計算をすることが多々ありますが、その昔はそろばんや計算尺を用いて計算し、出力についても手書きで行われるなど、その業務量は膨大なものでした。
昭和35年に導入された「会計機」は計算、集計、印字を同時に処理でき、当時としては画期的なものでした。主に課税事務で使用され、5分近くかかっていた複雑な計算も30秒足らずで完了。事務の効率化もさることながら正確さも向上しました。
その後、昭和45年には電算機を

事務処理の機械化

カノヤタイムトラベル

昔、鹿屋で起きた出来事にクローズアップ！



昭和36年頃の複写機。それまで戸籍謄本の写しの交付などは職員の手書きで行われていました。

導入。初期こそ税務や給与の計算処理が主な事務でしたが、その後は住民登録、国民健康保険、人事管理などの業務に威力を発揮。昭和59年からはパソコンやワープロ、ファクシミリといった機器を導入し、事務の機械化を徐々に進めました。現在はほとんどの業務をパソコンで行っており、もはや業務には欠かせない存在となっています。
今後デジタル技術の活用やスマート化を推進しながら、市民の皆さんにとってより便利な市民サービスが提供できるよう取り組んでいきます。